

【開幕前の一問一答】中大ボクシング部・糸川監督に聞く／BOX

2016.5.8 18:09

関東大学ボクシング2部リーグに所属する中大。1960年ローマ五輪銅メダリスト・田辺清、1964年東京五輪金メダリスト・故桜井孝雄をOBとして輩出し、かつては1部リーグ優勝15回の古豪である。その中大ボクシング部を指揮する糸川保二郎監督から、5月14日(土)に開幕する第69回関東大学ボクシングリーグ戦について話を聞いた。

——今年目標とライバル校は

「2部リーグ優勝、1部リーグ復帰だ。ライバルは昨年1部リーグとの入替戦において4対5で敗れた、法大である」

——チームの雰囲気、普段の練習や日常生活は

「チームは絶好調。部員は南平寮という合宿所に入り、規則正しく、早寝早起きをして授業優先としている。毎朝6時からロードワーク、坂道ダッシュ、午後練習は18時から2時間のジムワークを行っている」

——チームのキーマンと警戒する対戦選手は

「キーマンは新1年生、ライトフライ級の永田丈晶(熊本工業)だ。彼は昨年の国体で、総体王者の中垣龍汰朗(日章学園)、選抜王者の田村拓美(崇徳高校)、元プロボクサーで日本・東洋王者・松本好二を父に持ち、総体準優勝した松本圭佑(みなと総合)を破り国体王者となった。警戒する相手は平国大のフライ級・堤聖也(九州学院)だ」

——高校生のスカウトや部員の出身地、コーチの体制について

「スカウトとしてはブロック大会を視察している。部員は関東出身者が少なく、今は北海道、近畿地区出身の部員がない。コーチ陣は、糸川保二郎、伊藤貞男、樋口伸二、西條貴陽の4人体制である」

——学生時代にボクシングに取り組む学生に対して

「大学のアマチュア選手として最終章を飾るために、ボクシングの基本を見直し、試合で自己の能力が発揮できるように、日々鍛錬を惜みず創意工夫することを指導している」

——監督にとっての関東大学ボクシングリーグ戦とは


「私は一般受験をして大学からボクシングを始め、中大のレギュラー選手としてリーグ戦の舞台に立ち、そこで培われたことが今となっても耐え難い経験となっている。その精神が後輩、現役部員に脈々と継承されていることが誉れである」

中央大学ボクシング部

1930年創部。関東大学ボクシング1部リーグ優勝15回。ローマ五輪銅メダリスト・田辺清、東京五輪金メダリスト故桜井孝雄などがOB。全日本チャンピオン多数輩出

糸川保二郎監督プロフィール

1943年11月20日生まれ。千葉県立銚子水産高校出身

 Copyright (C) 2016 SANKEI DIGITAL INC. All rights reserved.